

ある日の議員団の一日

11月10日、この日はイベント盛りだくさん



9:30
南毛利シニアフェスタ
高齢者は元気です!

10:30
大道芸の前に物産展。
友好都市のカカシやア
ザラシ



11:00
大道芸が始まった。
市内いたるところで、
楽しいイベント

14:00
依知地域の議会報告会



地域をつなぐ人づくり、なかまづくり

厚木市青少年健全育成大会

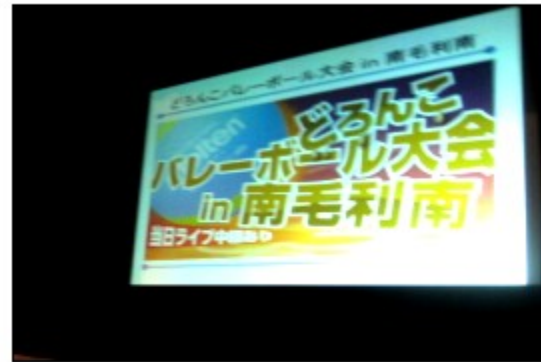
第37回厚木市青少年健全育成大会が「地域をつなぐ人づくり、なかまづくり、心のふれ合いを大切に」と題して、11月17日(土)開催されました。

次代を担う青少年が、心身共に健康に育ち、社会的自立を果たすためには、市民一人一人が認識を深め、家庭、地域、学校、行政が連携、協力して一体となった活動が重要で、青少年の健全育成活動を進め、定着させようと、各地の支援活動が展開されます。

15地区が順番にする活動発表は、地区にとっては15年に一度の大イベント、力が入ります。

今回は、南毛利南地区です。「人のふれあいをしみ親と子どもとの絆を結ぶ地域力」を目標として、「地域を盛り上げるために、自分たち役員が楽しくやるのが大事」と、ステージでは仮装大会

かと思まうような様子。子役も登場。どんぱちボール大会のことなどを笑いに楽しそうに発表しました。



「よみがえれ!」
子どもの笑顔・元気」

その後は、講演です。

講師は新田新一郎氏。仙台を拠点に「子どもが育つまちづくり」「子どもの参画」をテーマに、子どもの遊びと美術のワークショップで、子ども環境学会の活動奨励賞を受賞しています。

いい先生が学校だけでなく地域にもいっぱいいる。南毛利南地区の発表を聴いて、「すごいぞ、厚木」とブログに書いて出てきた。

3・11の時、自分の所にいた子どもたちは、泣いていなかった。泣いていたのは、子どもの無事を確認したお母さんたちだった。被災地に行ったが、そこで活躍していたのがジュニアリーダーたちだった。

3か所で3日間の練習、4日目が本番の子どもミュージカル「明けぬい夜はないから」をした。「歌う」って、「訴える」が語源。出演者中には、避難所でできたブツブツが治ったり、津波のトラウマでお風呂に入れなかったが入れようになった子もいた。子どもたちは「皆に元気に・笑顔になってもらいたい」「皆のおかげで元気になった」と。

このあたりで、会場あちこちからすすり泣きが聞こえてきました。

だけど、被災地だけが元気がないのか。今、日本の子は自殺し、虐待を受け、疲れている。自尊心を持つ子が8・6%、10人に一人もいない。今の子どもが一番の問題は「合理的に効率良く」を求められること。日本は、記憶力しか育っていない。本物の経験・体験がない。地域の教育力がない。教育力とは、その気にさせること。昔は、返事がいいとか足が速いとか、いっぱいモノサシがあった。「俺にはこれがある」と人は生きられる。学校でいじめをしている子に、地域でいろんな場面での子に「ありがとう」と言ったらいじめなくなった。

ポジティブシンキングの人が地域に一人いたら、笑顔になる。金持ちではなく、熱い笑顔の時間持ち。人は人に育てられるしかない。食べるもの、笑顔、ふれあいで育つ。

空間・時間・仲間の3つの間で育つ。大切な何かを次の世代につなぐことが、日本を救う事になる。

話題あれこれ

テレビじゃ聴けない食の安全

11月12日(月)は厚木市消費生活センター主催の「食の安全」講演会、「テレビじゃ聴けない食の安全」。講師は4年連続で食品問題評論家・垣田達哉氏です。

放射線について、内部・外部被ばくのことなど、昨年以上に時間をかけて話しました。放射線被害についてわかっていないことは少なく、どんなものを食べるのか、食べないのか、最後は個人・家庭が判断することだと。テレビによく出演しているの、マスコミではセンセーショナルに取り上げ、消費者に正しい知識が伝わりにくい様子を具体的に話しました。

参加者からは「私たちが賢くならなければ」との発言もありました。

知ることは必要だけれど、原発のような危険なものはやめた方がいいに決まっています。